

PBF 定期通信 no.14

2026 年 8 月 15 日発行

Practical Biosafety Forum : 生物安全実践講習会

発信元 : (一財)機能水研究振興財団 / (公財)ルイ・パストゥール医学研究センター
生物安全実践講習会 専門委員会 編集担当 堀田国元・中藤誉子
〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-20-8 Tel: 03-5435-8501, Fax: 03-5435-8522
E-mail: pbf@fwf.or.jp
ホームページ: <https://kinousui-zaidan.wixsite.com/seibutuanzen>

● Topics ●

WHO/CDC 関連情報

コンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱ブンディブギョウイルス病(BVD)の流行
認知機能低下と認知症のリスクを軽減するための最新のガイドライン
米国内で確認されたサイクロスポラ症／サルモネラ菌の複数州にわたる集団感染
根本原因分析による食品安全性の強化

厚労省他 関連情報

手足口病の症例と発生状況
遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」
に基づく措置命令について

<紹介>

JIHS AMR 臨床リファレンスセンター
JIHS 国立感染症研究所 市民公開講座

<お知らせ>

2026 年度 生物安全実践講習会スケジュール

第 8 回基盤コース 2026 年 12 月 18 日 北里大学 白金キャンパス(東京)《募集中》
第 9 回実践コース B 2027 年 2 月 25 日(木)26 日(金)北里環境科学センター(相模原)
※ご所属の同僚の方々のほか、関係する方々へも是非ご紹介ください。

ご登録情報の確認

ご登録内容(お名前・ご所属・ご住所・電話番号・E-mail アドレス)にご変更がある場合は、お手数ですが事務局までお知らせ下さい。皆様の個人情報、当講習会個人情報保護方針に則り、適切に管理いたします。

講習会広報用動画のご案内

第 3 回実践コース B 開催時に撮影した動画を 5 分間のダイジェストにまとめた動画を講習会ホームページへ掲載しております。ご所属の同僚の方々のほか関係する方々へも是非ご紹介ください。



【 WHO/CDC 関連情報 】

◎ WHO Ebola disease caused by Bundibugyo virus – Democratic Republic of the Congo
(2026 年 8 月 1 日)

<https://www.who.int/emergencies/disease-outbreak-news/item/2026-DON614>

コンゴ民主共和国におけるエボラ出血熱ブンディブギョウイルス病 (BVD) の流行は、感染が持続し、報告された症例数と死亡者数が引き続き増加していることから、深刻化しています。今回の流行は、コンゴ民主共和国で報告されたエボラ出血熱の流行としては過去最大規模となっており、直近の完全な報告週 (疫学週 30) では、報告された症例数 (567) と死亡者数 (296) が過去最高を記録し、感染の異常なペースが強調されました。

BVD は、オルソエボラウイルス属の一種であるブンディブギョウイルスによって引き起こされる重篤なエボラ出血熱の一種です。人獣共通感染症であり、オオコウモリが自然宿主であると考えられています。感染拡大は、感染予防対策が不十分な医療現場や、故人との直接接触を伴う不適切な埋葬方法によって特に深刻化します。BVD に対する承認済みのワクチンや特異的な治療法は現在存在しないため、アウトブレイクの抑制には、迅速な症例特定、隔離と治療、接触者追跡、安全な埋葬、そして地域社会の積極的な関与が不可欠です。

【参考】エボラ出血熱に関するファクトシート

<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/ebola-disease>

◎ WHO New WHO guidelines: up to 45% of dementia risk could be prevented or delayed
(2026 年 7 月 15 日)

<https://www.who.int/news/item/15-07-2026-new-who-guidelines--up-to-45--of-dementia-risk-could-be-prevented-or-delayed>

認知機能低下と認知症のリスクを軽減するための最新のガイドラインを発表し、各国に対し、生涯を通じて認知症の発症を予防または遅延させるための科学的根拠に基づいた推奨事項を提供しています。改訂されたガイドラインは、WHO が 2019 年に認知症リスク低減に関する勧告を初めて発表して以来、エビデンス基盤が大幅に拡大したことを反映しています。不健康な行動への対処、病状の管理、認知機能低下や認知症の一因となる可能性のある環境要因への曝露を減らすための包括的な勧告が示されています。

【参考】WHO ガイドライン、第 2 版

<https://www.who.int/publications/i/item/9789240123557>

◎ Domestically Acquired Cyclosporiasis Cases in Multiple U.S. States, 2026

<https://www.cdc.gov/han/php/notices/han00531.html> (2026 年 7 月 14 日)

2026 年 5 月 1 日以降、CDC は米国内で確認されたサイクロスポラ症の症例 1,645 件の報告を受けており、米国内感染したサイクロスポラ症であることを確認するためにさらなる分析が必要な症例が 5,100 件以上あることを認識しています。

サイクロスポラ症は、微小な寄生虫であるサイクロスポラによって引き起こされる胃腸疾患です。人は、この寄生虫に汚染された食品や水を摂取することで感染します。

【参考】Investigation of 15-State Outbreak of Cyclospora Illnesses: Iceberg Lettuce (July 2026)

<https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/investigation-15-state-outbreak-cyclospora-illnesses-iceberg-lettuce-july-2026>

◎ CDC warns of Salmonella outbreak linked to jalapeños (2026 年 8 月 5 日)

<https://www.cdc.gov/media/releases/2026/2026-cdc-warns-of-salmonella-outbreak-linked-to-jalapenos.html>

CDC は、パラペーニョに関連したサルモネラ菌の複数州にわたる集団感染に関する食品安全警報を発令しました。サルモネラ菌に汚染された食品を摂取してから 12~72 時間以内に発症し、症状は通常 4~7 日間続きます。症状には下痢、発熱、腹痛などがあります。5 歳未満の子供、高齢者、免疫力が低下している人は、重症化しやすい傾向があります。メキシコ・シナロア州産の生パラペーニョがリコール対象となっています。

【参考】 <https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/outbreak-investigation-salmonella-jalapeno-august-2026>

◎ FDA Launches Food Safety Resources on Best Practices, Root Cause Analysis

<https://www.qualityassurancemag.com/news/fda-launches-food-safety-resources-best-practices-root-cause-analysis/>

食品安全に関するベストプラクティスやその他の文書に関する FDA と業界との連携が紹介されています。

【参考】 Strengthening Food Safety through Root Cause Analysis
<https://www.fda.gov/food/outbreaks-foodborne-illness/strengthening-food-safety-through-root-cause-analysis>

食品安全事故が発生した場合、業界と規制当局の両方が、その問題がなぜ、どのように発生したのかを理解することが重要です。食品安全事故は、生物学的、化学的、物理的、または放射線学的要因を問わず、食品を安全に摂取できない状態にし、公衆衛生にリスクをもたらす可能性のある特定の状況、慣行、または汚染事象によって引き起こされる可能性があります。根本原因分析（RCA）の結果は、企業が自社の食品安全対策を改善し、業界全体のベストプラクティスを策定するのに役立ち、また FDA がガイダンスや監視体制を強化するのにも役立ち、これらすべてが再発防止につながります。

【厚生労働省等 関連情報】

◎ 厚生労働省 手足口病

<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/hfmd.html>

手足口病の報告数が増加しています。国立健康危機管理研究機構（JIHS）によりますと、感染症週報の 2026 年第 27 週（6 月 29 日~7 月 5 日）の手足口病の全国の報告数は 15,845 例、定点当たり報告数は 7.03 となりました。

手足口病は、毎年夏季に小児で流行が見られる疾患です。一般的に予後は良好ですが、まれに重症化し、髄膜炎や脳炎といった中枢神経の合併症、神経原性肺水腫、心肺機能不全を合併することがあります。感染経路は主に飛沫感染、経口（糞口）感染、接触感染です。

今夏の夏休み中も感染拡大に備えるため、基本的な感染症対策が必要です。予防には、こまめな手洗いのほか、タオル・おもちゃなどの共有は避け、また排泄物については適切な処理を施すよう、注意喚起をお願いいたします。

【参考】 グラフで見る感染症流行状況

<https://www.jihs.go.jp/content10/030/Dashboard.html>

◎ 厚労省／環境省

「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」に基づく措置命令について」(2026 年 5 月 27 日)

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_73468.html

厚生労働省および環境省は 5 月 27 日、「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律（カルタヘナ法）」第 10 条第 1 項に基づき、がんの自由診療などを行う全国の医療機関 33 施設に対して措置命令を行いました。

これは、当該医療機関が実施していた、遺伝子組換え生物等を用いた医療について、カルタヘナ法第 2 条第 5 項に規定される第一種使用等に該当し、本来同法第 4 条第 1 項に基づく主務大臣の承認を受ける必要があったところ、必要な承認を受けずに第一種使用等を行っていたことに対する処分です。

【参考】研究開発段階における第二種使用等

ポジションペーパー：研究開発二種省令に規定された語句などの範囲を明確にしたもの

https://www.mext.go.jp/a_menu/lifescience/bioethics/mext_02727.html

《紹介》

◎ 国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター AMR 臨床リファレンスセンター

◆One Health の視点から 獣医療における AMR 対策の普及啓発に取り組む

<https://amr.jihs.go.jp/case-study/017.html>

1973 年設立の動物用抗菌剤研究会は、早くから動物の耐性菌問題に取り組み、薬剤使用の適正化に向け普及啓発活動を行ってきました。設立のきっかけは、1969 年に英国で発表されたスワンレポート（Swann Committee Report）です。その中で、家畜由来の耐性菌が食物連鎖を介してヒトの健康に影響する危険性が、国家レベルで初めて指摘されました。当初の目的は耐性菌の調査研究でしたが、家畜用抗菌剤の研究や適正使用にも取り組むようになり、今は水産動物や愛玩動物（ペット）も対象になっています。

家畜では、大きく 2 種類の抗菌性物質が使われています。1 つは細菌感染症の治療に用いられる動物用医薬品で、抗菌剤といった場合はこちらを指します。もう 1 つは、家畜の餌に混ぜて使われる抗菌性飼料添加物です。飼料添加物は抗菌というより、飼料中の栄養成分の有効利用を目的に使われます。

畜産分野で発生が多くかつ被害も大きい感染症について、どんな抗菌剤をどのように使えばよいか、その目安をわかりやすくまとめたものです。これまでに 4 種類の治療ガイドブックを作成しています。

◎ 感染研市民公開講座 知らなかった、感染症の「へえー、そうだったんだ！」

国立感染症研究所チャンネル【公式】

【市民公開講座アーカイブ】 <https://www.youtube.com/watch?v=2sr7r9qYu7E>

高木弘隆先生『意外に多い！？小児の腸管ウイルス感染症』（2023 年 2 月 21 日実施）

新型コロナ感染症による人流抑制により心配視されているのが小児の免疫状態。

人流が戻りつつある中、巷ではあまり聞きなれないウイルス感染症が報告されている。

今回は「サポウイルス」と「パレコウイルス(主に 3 型)」についてご紹介します。